

## 高校生における親子関係の役割逆転に関する研究

山 田 智 貴

キーワード；役割逆転, 「甘え」, 自己愛, 尺度作成, メンタルヘルス, 高校生

### 問題と目的

厚生労働省 (2017) の報告によると, 児童相談所が対応した児童虐待の対応件数は増加の一途をたどっており, 児童虐待の実態は年々深刻化していると考えられている。親子関係の役割逆転 (role reversal) とは児童虐待が起こる親子間で「発見」された不健全な親子関係の一形態である。しかし, 役割逆転の生起は児童虐待が発生する親子に限らないと指摘されており, 役割逆転の研究を行うことは児童虐待の予防・早期発見などの観点からも有益である。

しかしながら, 役割逆転に関する研究は十分に行われているとは言い難い。とりわけ実証的研究は乏しく, 本邦では山田・平石・渡邊 (2015, 2016) に限られる。よって役割逆転の実証的研究が行われることが望まれるだろう。

そこで本研究では, 先行研究を整理しながら親子間の「甘え」と親の自己愛的パーソナリティに注目し, (a) 親が子どもに甘える, (b) 子どもは親に甘えられない, (c) 親は子どもの甘えを満たさない, (d) 子どもは親の甘えを満たす, との4側面に着目して役割逆転の概念設定を行い, その概念に符合する尺度作成を行う。また, 役割逆転は児童虐待と関連深い親子関係の形態であるとされるため, 子どものメンタルヘル스에悪影響を与えることが想定される。そこで, 役割逆転は子どもの心理的ストレスには正の関連があり, 精神的健康・自尊感情・本来感とは負の関連を示すとの仮説を設定し, この仮説検証を通じて役割逆転の健全性について実証的に議論する。

### 方法

#### 1. 研究参加者

2018年11月に東海圏内にある全日制の2校の高等学校に所属する204名の高校生を対象に質問紙調査を行った (有効回答者数は $n=197$ )。平均年齢は17.01歳 ( $SD=1.00$ ) であった。

#### 2. 質問紙の構成

**親子関係の役割逆転** 「親または保護者のうち, あなたと普段最も関わりのある人を一人思い浮かべ, その人にあてはまるものに○をつけてください」との指示文を与え, 高校生と最もかかわりのある親を1名回答してもらったうえで, その人物との関係における役割逆転に関する合計31項目からなる尺度である。6件法。

**心理的ストレス** 松尾・太田・井田・竹田 (2015) が作成した子どものストレス反応尺度 (CSR) を用いた。4件法で, 「易怒」「無気力」「抑うつ・身体反応」の3因子構造計12項目。

**精神的健康** 井上 (2012) が作成した中学生版精神健康調査票 (JHQ-12) を使用した。1因子構造からなる4件法の尺度である。

**自尊感情** 箕浦・成田 (2013) が作成した2項目自尊感情尺度 (TISE) を用いる。「自分にはいろいろな良い素質があると思う」「自分のことを好ましく感じる」の2項目であり, 評定は5件法である。

**本来感** 伊藤・小玉 (2005) が作成した本来感尺度を使用する。1因子構造の7項目で5件法。

#### 結果と考察

探索的因子分析の結果, 設定した役割逆転の4特徴を含む改訂版親子関係の役割逆転尺度 (ReP-CRRRI) が作成された (Table 1)。また, ReP-CRRRIと心理的ストレス, 精神的健康, 自尊感情, 本来感との相関係数を男女込みおよび男女別で算出された (Table 2)。その結果,

役割逆転の中でも「子どもからみて親が子どもの甘えを満たさない親子関係」や「子どもが親に甘えられない親子関係」が子どものメンタルヘル스에与える影響が相対的に大きいことが示された。加えて, 子どものメンタルヘルスに対する子どもが親に甘えられないことの影響力は男性よりも女性において大きいこと可能性が示唆された。

高校生における親子関係の役割逆転に関する研究

Table 1 改訂版親子関係の役割逆転尺度 (ReP-CRRRI) の因子分析結果 (n = 188 ; 最尤法, オブリミン回転)

項目 <sup>(注1)</sup>	Mean <sup>(注2)</sup>	SD	f1	f2	f3	f4	CF <sup>(注3)</sup>
第1因子:「子どもの甘えを満たさない親」(α = .88 ; すべて逆転項目)							
1 私が落ち込んでいるとき、〇〇は私を励ましてくれる	2.34	1.24	.87	.03	.05	.01	.86***
5 悩み事や悲しみも含めて、〇〇は私の話を真剣に聴いてくれる	2.30	1.24	.74	.16	.01	-.03	.83***
3 私は〇〇からよくほめられる	2.84	1.31	.71	.01	-.05	.11	.80***
30 私はふだんの生活の中で、〇〇の愛を感じる	2.49	1.24	.68	-.01	-.13	-.02	.73***
第2因子:「甘えられない子ども」(α = .90 ; すべて逆転項目)							
21 私は、〇〇には自分の言いたいことが言える	2.55	1.25	-.02	.90	.06	.05	.87***
18 私は、〇〇の前では自分の本当の気持ちを抑える必要がない	2.74	1.34	-.04	.80	-.06	.08	.82***
6 私は、〇〇には自分の思っていることを素直に話せる	2.64	1.30	.07	.74	-.15	-.05	.85***
23 私は、〇〇の前では演技などせず、自分の気持ちに正直であることができる	2.41	1.31	.13	.71	-.01	-.06	.78***
第3因子:「親の甘えを満たす子ども」(α = .85)							
16 私は日頃から、〇〇に感謝の気持ちを伝えるよう意識している	3.71	1.33	.08	-.05	.97	.01	.81***
9 私は日頃から、〇〇に尊敬の気持ちを意識して伝えている	3.59	1.31	-.17	.00	.68	-.05	.81***
19 私は〇〇をよくほめる <sup>(注4)</sup>	3.39	1.31	-.32	-.03	.43	-.09	.73***
31 〇〇が落ち込んでいるとき、私は〇〇を励まし元気づける <sup>(注4)</sup>	4.09	1.26	-.36	-.05	.39	-.09	.75***
第4因子:「子どもに甘える親」 <sup>(注5)</sup> (α = .78 ; すべて逆転項目)							
29 C私は〇〇がイライラしている姿をあまりみかけない	4.07	1.30	-.11	.14	.03	.71	.59***
15 C〇〇は私に対して、ちょっとしたことで不機嫌にならない	3.08	1.41	.22	.12	-.10	.54	.82***
27 A私に対する〇〇の態度は謙虚だ	3.60	1.31	.08	-.12	-.11	.52	.47***
13 A〇〇は私に対して控えめな感じだ	4.42	1.27	-.13	-.24	-.07	.50	.19**
11 B〇〇は私にあまり口出しせず、私のやりたいことをやりたいようにやらせてくれる	2.57	1.31	.27	.10	.08	.46	.65***
25 B私と〇〇の意見が違ってても、〇〇は自分の意見を私に押し付けることなく私の意見を尊重してくれる	2.83	1.16	.27	.10	-.13	.45	.78***
因子間相関 <sup>(注6)</sup>			f1	.68	-.48	.42	
			f2	.75***	-.44	.39	
			f3	-.69***	-.62***	-.38	
			f4	.72***	.64***	-.68***	

(注1) 項目中にあるルビは質問紙の調査票に付したルビである。有意水準: \*\*p < .01, \*\*\*p < .001  
 (注2) 第1因子, 第2因子, 第4因子の各項目の平均値は逆転項目処理後の値を示した。  
 (注3) CFとは確認的因子分析における当該因子へのパス係数を示す。  
 (注4) この2項目は本文中に記載した因子負荷量の条件を満たしていないが、例外として尺度項目に含めた。  
 (注5) 「子どもに甘える親」について、項目の冒頭にAと付した項目が「愛情要求」、Bが「操作的期待を伴った自己本位的なコントロール」、Cが「屈折した甘え」に関する項目である。  
 (注6) 因子間相関は右上が探索的因子分析, 左下が確認的因子分析の値。

Table 2 ReP-CRRRIと心理的ストレス, 精神的健康, 自尊感情, 本来感との相関係数

変数	α係数	ReP-CRRRIの各下位尺度との相関係数											
		子どもの甘えを満たさない親			甘えられない子ども			親の甘えを満たす子ども			子どもに甘える親		
		全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
心理的ストレス (全体)	.87	.19**	.08	.29***	.18*	.10	.26**	.06	.16	-.03	.11	-.13	.23**
易怒	.84	.15*	.18	.18*	.11	.10	.15†	.08	.11	.03	.07	-.03	.11
無気力	.76	.31***	.17	.41***	.24***	.13	.32***	-.11	-.04	-.17†	.17*	-.01	.26**
抑うつ・身体反応	.79	.04	-.09	.14	.11	.03	.19*	.16*	.32***	.04	.04	-.28**	.20**
精神的健康	.75	-.32***	-.21	-.40***	-.38***	-.27*	-.45***	.20**	.20	.21*	-.27***	-.07	-.37***
自尊感情	.77	-.24***	-.33**	-.22*	-.25***	-.29*	-.31***	.20**	.16	.12	-.17*	-.17	-.17†
本来感	.83	-.31***	-.48***	-.26***	-.33***	-.44***	-.24***	.12*	.44***	.10	-.18*	-.31*	-.12

心理的ストレスについては-.30以下, 精神的健康・自尊感情・本来感では.30以上の値を示したところを†p < .10, \*p < .05, \*\*p < .01, \*\*\*p < .001太字で記している。